

彫刻・絵画の調査

美術工芸研究室

仏像納入文書の調査研究 昨年度に継続して収集資料の整理・解説に当り、資料集成の刊行を期して原稿作製をおこなった。また、東大寺大仏の随侍両菩薩像の調査にともない、両像の白毫中から寛延4年(1751)および宝暦2年(1755)の納入舍利・納入文書を確認、これらの資料も整理した。なお、昨年度確認した長谷寺本尊の随侍像納入品については、学報21冊の史料として紹介した。

南都造像史の研究 東大寺大仏に随侍する如意輪・虚空蔵菩薩両像の調査(奈良県依頼調査)に関連して、東大寺の元禄復興期における造像活動を検討し、聖武天皇像(塑像)、公慶上人坐像、鑑真和上像など10例の調査をおこなった。また唐招提寺の行基菩薩像など、主として鎌倉時代の作例の調査も実施した。

写真測量による仏像実測調査 平城調査部計測修景室との協同で実施している写真測量による仏像等の実測調査は、今年度は正倉院伎楽面の図化作業に集中し、主として乾漆面の実測図の作製をおこなった。また、従来成果を応用して、薬師寺金堂三尊と荘嚴具の復元的考察を試みた(2ページ参照)。

「仏像修理記録」に関する調査研究 本研究所蔵になる旧日本美術院第2部のいわゆる「仏像修理記録」の刊行編集にともなう調査研究で、美術院の協力により、唐招提寺金堂本尊および千手観音像の調査をおこなうとともに、修理記録の目録の作成、図版資料の整備などを実施した。なお、目下、第1冊の刊行を期して編集準備にかかっている。

仏像における光背・台座の基礎的調査研究
仏像の荘嚴具としての光背・台座の形式変遷を実証的かつ復元的におこなうもので、今年度は文献上の用語例の収集と検討をおこなうとともに、唐招提寺金堂諸像の光背・台座について調査を実施し、復元的考察をおこなった(6ページ参照)。

その他の調査 昨年度に確認した吉野山蔵王堂の「荷揚げ船額(絵馬)」の継続調査を実施して、文化庁の指定資料を作製した。こゝに実測図を掲げて、昨年度の報告を補足しておきたい。なお、今回の調査で奉納者の連名中に上市・下市と判読できる箇所が確かめられた。また、吉野町の依頼調査により大峯山寺の応永33年銘の役行者および2侍者像を確認したほか、奈良県教委の依頼で、前記東大寺大仏の両随侍像を文化庁とともに調査した。

第1図 蔵王堂奉懸額実測図